

活動内容：国際学会での発表

## Effective Utilization of Empty Fruit Bunch Washing Water and Influence on Greenhouse Gas Emission and Nutrient Dynamics in Oil Palm Field

川嶋 彩那（博士前期課程2年）

渡航先：フィリピン・マニラ

ISSAAS International Scientific Congress and  
General Meeting 2023 (2023/11/8–11)

国際稲研究所 (IRRI) 見学

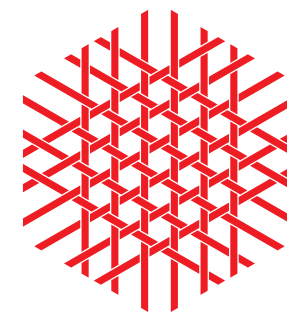
今回の ISSAAS 学会ではフィリピン、タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、日本の 6 カ国が参加していました。そのため、国によって栽培されるものや土壌の特徴によって発表のトレンドが異なりました。フィリピンでは日本ではあまり馴染みのないバナナの病害についてなど初めて聞くような内容も多く興味深かったです。また、分野としても土壌、植物病理、微生物、リモートセンシングなど幅広い専門分野を持つ方々の発表を聞く機会となりました。中でも、最も考えさせられたのは文化的な背景に関する研究です。ラボに籠っているとミクロな視点に囚われがちですが、マクロな視点（研究を通してどのように社会と関わり、変えていくかなど）をもって発表される方が多く、良い学びとなりました。質疑応答の時間では違うトレンドや土壌を持つバックグラウンドを持つ方々同士の積極的な意見交換を聞く中で、国内で行われる学会との違いを感じました。それぞれの国の常識は他の国では通用しない場合があるのではないかと考えました。より多くの異なる視点からの白熱した意見交換を聞いているのは非常に面白かったです。

IRRI ではまず International Rice Genebank を訪問しました。低温室の棚の上から下までびっしりと種が保存されている光景に圧倒されました。品種改良によるより収量の多い品種や低 GI の品種など世界には様々な品種が存在



していることを知るきっかけとなりました。今後ますます食糧不足になるであろう世界で、土壌にフォーカスする以外に遺伝学的なアプローチの重要性について考えさせられました。IRRI の圃場では一見、日本と変わらない水田光景に思いましたが、三毛作であったり季節的に日本ほど関係なく田植えが可能な環境だったり熱帯ならではの稲作の光景を見ることができ、非常に面白かったです。IRRI では長期的な肥料の施用の違いによる土壌化学性や収量、温室効果ガスのモニタリングを行っており、長期にわたって考察する事は改めて大切なことだと思いました。

今回、国際学会に参加して気づいた点としては、英語力の欠如が今回の学会の参加ではネックになった点です。座学での勉強はもちろん実践的に英語を話す機会が必要だと心の底から思いました。私は社会人でも英語を使う機会がある予定なので今回の経験をバネに英語のスピーキング力を伸ばしていくように努めたいと思いました。ただ、英語力だけでなく、伝えたいという気持ちがあれば相手が多少は理解してもらえるようにも思いました。今回の学会の参加ではこのことが体得できたことが大きな収穫になったように感じます。末尾になりましたが、活動ご支援ありがとうございました。



東京農業大学  
農芸化学科